



城西国際大学

地域連携推進センター通信

Center for Regional Collaboration

発行

城西国際大学 地域連携推進センター
千葉県東金市求名1番地

発行日

2023年3月22日

Vol. 3



Contents

- ① 地域連携推進センター紹介・意見交換会
- ② 域学共創プロジェクト
- ⑥ 専門職連携教育
- ⑩ 30周年記念事業 一宮町長講演
ちば子ども大学
本学の研究シーズ集紹介
- ⑪ シニア・ウェルネス大学／市民未来大学
地域活性を志向した子育て支援モデル
- ⑫ 公開講座
- ⑬ コミュニティカレッジ・葉草図鑑
- ⑭ 観光学部移転による地域連携活動
- ⑯ 2022年度 主な地域連携活動

地域連携推進センターとは

地域とともに未来を創造する城西国際大学の地域連携の窓口です。本学の地域に関わる教育研究および社会貢献活動を統括・調整することにより、①産業の振興、観光の振興、②地域の活性化、まちづくり、③健康の増進及び福祉の充実、④地域人材の育成、⑤地域と連携した学術研究、⑥現地学修や生涯教育の6つの分野に関わる活動を支援しています。

2022年度も本学に設置されたCOVID-19対策本部の感染拡大防止の対応を遵守し、各種地域連携活動を行いました。

山武郡市地域連携意見交換会

地域連携推進センターでは、千葉東金キャンパス周辺の地域の課題解決に向けて近隣自治体との連携を深めるため、2021年度より地域連携意見交換会を定期的に開催しています。千葉東金キャンパスにて開催し、本学は研究推進・社会貢献部長の秋元雅之教授を中心に、各自治体からは地域連携の担当者を中心に出席しています。

第1回会議（7月27日）では、「子育て支援」をテーマに意見を交換し、地域が抱える課題発見とその共有、解決に向けて引き続き協力を深めていくことを確認しました。また、本学研究チームが実施している

「子育て支援情報に関するアンケート」の中間報告も行いました。アンケートから明らかになった自治体における子育て情報の発信における状況と課題について共有し、今後の分析に向けて要望等を確認することができました。

意見交換会は今後も定期的に開催し、官と学の結びつきを活かした地域活性・地方創生活動を展開していきます。また、学生との連携に期待する声も寄せられており、この意見交換会を端緒に、地域との結びつきをさらに強めてまいります。





域学共創プロジェクトとは

「域学共創プロジェクト」は、本学の地域基盤型教育の一つであり、大学と地域との協働により地域課題解決に取り組む学生主体の授業です。プロジェクトを通じて街を活性化するとともに、企画力やマネジメント力、創造性を養うことを目的として活動しています。2022年度は立ち上げた7プロジェクト中、6プロジェクトが開講、1年生84名が履修し実際に活動を行ないました。

各プロジェクトの活動について、2022年11月に実施された本学大学祭にて中間発表会を行い、2023年2月には、東金ショッピングセンターサンピアにて最終発表会を実施させていただき、多くの方に足を運んでいただきました。最終発表会では集大成として今までの活動や結果、今後の展望などを報告し、2022年度の活動は終了となりました。

【最終発表会アンケート結果】

最終発表会ではアンケートを実施し、28名の方からご回答いただきました。聞き取りづらさ、音響の改善を望むご意見が多く、次回の課題として対応を検討して参ります。

●該当する数字に○をつけてください	【 はい ← 普通 → いいえ 】				
設 問	5	4	3	2	1
(1) 発表内容はわかりやすかったですか	35.7%	32.1%	28.6%	0.0%	0.0%
(2) 時間配分は適切でしたか	46.4%	28.6%	25.0%	0.0%	0.0%
(3) 発表は聞き取りやすかったですか	10.7%	17.9%	46.4%	17.9%	7.1%



●自由記述欄(抜粋)

- 地域の活性化の起爆剤となるようなプロジェクトを学生の視点で行うことは素晴らしいと思った。
- 学生、先生方の姿勢、取り組みに敬意と感謝の気持ちを抱いた。今後とも、地域と共に創るスタンスを持ち続けていきたい。
- どのグループも活動内容についてよく考察され、プレゼンをまとめていると感じた。発表が聞き取りにくいグループもあったため、伝わるようにプレゼンをするより良いと感じた。
- さまざまな課題にアプローチされていて非常に勉強になった。一企業として今後も学生の皆さまと協力し合いながら千葉県をより良く出来たらと感じた。

QRコードから活動紹介をご覧いただけます

一部のプロジェクトは、以下のQRコードから更に詳細をご覧いただけます。また、各プロジェクトのこれまでの活動の一部や中間発表会、最終発表会の様子は地域連携推進センターホームページでもご紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

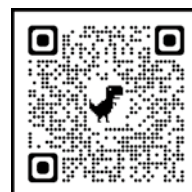
〈域学共創プロジェクトB〉
道の駅と大学のプロジェクト



〈域学共創プロジェクトG〉
ケア機能のあるまちづくりー多世代交流ー



〈地域連携推進センターHP〉
域学共創プロジェクト活動紹介





『東金市の祭りと伝統芸能』

担当教員：名本 光男(国際人文学部国際文化学科)

域学共創プロジェクトAは、東金市で古くから行われている祭りや伝統芸能などの調査だけでなく、運営にも関わらせていただくことによって、その成り立ちを含んだ歴史や民俗的な存在意義や意味などについての理解のみならず、地域の人々との触れあいの中で、当該プロジェクトを履修している学生たちが、東金キャンパスの立地している「地域」の一員であることを実感しつつ、地域に関しての理解を深めることを目的としています。

本プロジェクトで実際に参加を決めていた祭事は、東金市に鎮座する日吉神社の連合祭典で、旧暦の6月、つまり、現在の7月下旬に隔年で実施されるものでした。当祭典においては、当該神社に関係する市内9区から大型の山車・屋形が神輿を先導し、山車・屋形の上に乗った演奏者によって囃子が賑やかに演奏され、市内9区を巡行するものです。

本プロジェクトでは、本祭典への参加を目標としていましたが、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響によって、本年度に実施予定であった祭典が中止となってしまい

ました。本プロジェクトの目標達成が困難となってしまいましたが、急遽、本祭典の関係者への聞き取り調査を実施することによって、本祭典の、地域社会での役割、現在抱えている問題点、それに関する解決策を、学生目線で見いだすことに目標を変更して、プロジェクトを実施することとなりました。

その結果、当該祭典の開催にあたっては、東金市における人口の減少、地域のさまざまなコミュニティへの参加に関しての関心が弱まっていること、さらには資金面での問題も明らかになってきました。

それらの問題および、解決に向けた方策については、次年度以降に実際の祭祀への参加が可能となった際に、実証をしたいと考えています。



『道の駅と大学プロジェクト』

担当教員：金子 祐介(観光学部観光学科)

2022年度に実施した全学共通基盤科目・域学共創プロジェクトBは、観光学部と経営情報学部の学生が主体となり、国土交通省主幹の「道の駅と大学」連携プロジェクトに紐づく活動として実施してきました。とくに、本年度は、「道の駅」を基点に、東金市のような「もともと観光地ではない場所」に、サイクルツーリズム(自転車を活用した観光)のためのコース案の作成やイベントの企画を介して、観光のアクティビティを創出することを目指してきました。同時に、そのアクティビティが、地域経済の活性化に寄与できればと考え実施した活動となります。

ちなみに、こうしたサイクルツーリズムに関わる活動は、本年度の授業に集まった学生が、東金市のアップダウンの激しい地形を読み解き、こうした地域でも回遊性を高める



ことができる e-bike(電動アシスト付き自転車)を利用した周遊コースを創りたいという想いから始まりました。実

際、東金市を調査してみると、観光スポットとなるような要素が数多くあるにも関わらず、要素間を繋ぐ交通の便の問題や駐車スペースが確保されていない場所が多いという環境整備上の問題で、観光に利用されてこなかった名所旧跡や飲食店が数多く存在している地域だということがわかったことも理由として挙げられます。つまり、そうした地域内に点在した魅力を繋ぐための活動でもありました。

そこで、e-bikeを介し地域活性化にも力を入れているメリダジャパン株式会社の指導を仰ぐべく、当企業の拠点が置かれている伊豆の国市へ視察に伺い、「どのように地域の特性を活かしたコース作りをしているのか?」「そのコースを活用してもらうための拠点をどのように運営しているのか?」ということを知ることができました。そして、道の駅・みのりの郷東金を、地域観光、地域振興の拠点として捉え、「パークアンドライド」を推進した「新しい観光」としてのマイクロツーリズムのあり方を検討することとなりました。

最後になりますが、次年度以降も継続した活動としたいと考えておりますので、今後とも、ご支援の程よろしくお願

『田間マラソン』

担当教員：酒井 健介(薬学部医療薬学科)

田間マラソンは、平成26年より「新旧住民の融和・世代間交流を深めるため、誰でも気軽に参加できるリレーマラソン」として誕生しました(東金市田間地区が市民提案型協働事業に採択)。本イベントは地域の手作りイベントであり、リレーマラソンのみならず、観覧者を含め誰もが楽しめるアトラクションや飲食の販売、協賛企業による健康ブースなどが設置され、「地域の人をつなげる様々な工夫」がなされています。

一方で、これまでは行政からの助成を主たる資金として実施していたため、必ずしも参加者の期待に十分にこたえられていたかは定かではなく、また資金の観点から、今後の開催継続も危惧されていました。そこでイベント実施にあたり最大の金銭的負担であった「レース計測」を本プロジェクト参加学生が担うとともに、本イベント実行委員となり、広くイベント開催を「体験する」ことを本プロジェクトの活動目的としました。

参加学生は、①リレーマラソン参加申込サイトの作成、②レース計測、③レース結果の出力、④運営全般への手伝いを行いました。とりわけ、②と③レース計測、結果出力

においては、事前にセンサーがチップを感知する範囲の設定を詳細に行い、誤作動が起きないかを十分に検証しました。また、専用の機器からデータをPCに移しエクセルで加工した後、記録証や賞状として出力するための工夫も行いました。これら十全の準備があり、イベント当日はエラー無くすべての走者の記録証を作成配布することができました。

本プロジェクトを通じて、イベント前日の参加者配布物の準備や、イベント当日の飲食物販売やスポーツドリンクの配布などを地域の方々を行うことで、様々なコミュニケーションをとることができました。それぞれ、看護、理学療法、薬という医療系学科に属する参加学生にとって、「地域活動」を通じた「健康介入」の在り方について考えるいい機会となったと考えます。



『心食体地～SDGsに配慮した国際こども園プロジェクト』

担当教員：倉田 新、伊藤 将子、川瀬 力也(福祉総合学部福祉総合学科) 鈴木 明子(看護学部看護学科)

『心食体地SDGsに配慮した国際こども園プロジェクト』は、環境問題と向き合いながら様々な自然体験をし、そこで得た知識や経験を子どもたちへの環境教育につなげていきます。その第一歩として建設中の『東金国際こども園』の園庭や活用に反映し伝えていくことを目的としています。

これは福祉総合学科に看護学部や観光学部、経営情報学部を含めた4学部連携で、1年生～4年生の51名の学生たちの活動です。

SDGsの目標4の「質の高い教育をみんなに」と目標



15の「陸の豊かさを守ろう」を目標にしているこのプロジェクトは、大学のキャンパスを自然や文化、生活などの地域資源をまるごと保

全しつつ展示的に活用し、教育や地域活性化に結びつける「フィールドミュージアム化」して行っています。

キャンパス内で学生たちは、落ち葉を利用した堆肥づくりや畑での作物づくり、バラ園のバラを活用した石鹸づくりも行いました。また、植樹の山桃の実を収穫してジュースをつくり試飲してみるなども行いました。学外活動では、八ヶ岳合宿で環境教育を学び、富津市の海岸では春と秋にビーチコーミングも行いました。富津市の古民家では、春には梅の実の収穫、秋には柿の実の収穫体験を行いました。

学生たちは、普段の生活では経験することの出来ない様々な自然体験を通して多くのことを学びました。また、活動に関わった多くの人たちや地域とつながることもできました。ここで得たつながりや経験をいかして学生たちが建設中の東金国際こども園(園庭監修、多田充教授)の園庭や活動を提案していきます。身近な自然が素晴らしい教材であることを、学生たちが子どもたちへつないでくれるのです。



『地域に住まう人々の健康増進と障害予防に向けた実践活動』

担当教員：大杉 紘徳、窓場 勝之、安齋 紗保理(福祉総合学部理学療法学科)

本プロジェクトでは、「健康増進」・「障害予防」の概念を学び、その知識を活かして、地域に住まう人々の健康チェックや結果の説明、体操指導などの実践活動を行いました。実践活動での経験を通して、対人援助職として求められる基礎知識だけでなく、異なる年代の人と会話やコミュニケーションを行うことができる能力や、不測の事態が生じないように計画・管理するリスク管理能力、さらには現場で臨機応変に行動ができる対応力・応用力を培うことを目指して活動を行ってきました。

2022年度は、理学療法学科1・2年生9名、医療薬学科1年生1名が履修し、全部で



6回の実践活動を行いました。実践活動を開始した当初は、「健康チェックを上手くできなかった」、「地域の方々とのコミュニケーションをとれなかった」など学生から反省の声が多く聞かれていました。しかし、その後の実践活動では、その反省を生かし学生自ら地域の方々に話しかけコミュニケーションを積極的にとる、教員やボランティアとして参加している3・4年生の動きを参考にするなど改善に努めていました。最終的には、単に健康チェックを行うだけでなく、実践活動全体の中で自分がすべきことを考え行動することができるようになりました。ここでの経験を医療従事者としての未来に活かしてほしいと思います。



『ケア機能のあるまちづくり』 — 多世代交流 —

担当教員：井上 映子、柚山 香世子、伊賀 聡子、丸山あかね(看護学部看護学科)

本プロジェクトは、わが国の少子高齢社会を危機としてではなく、社会そのものを変革する転機として、トータルかつポジティブに捉えたいと考え、ねらいを「学生が地域の方との多世代交流を通して、相互にケアし合う、世代間相互依存関係を育む、新たなコミュニティづくりについて考える」こととしました。そのため、目標は1. コミュニティの課題を検討する、2. コミュニティの力を発見する、3. 体験を通して様々な価値観に触れて実感し、自分の考えを述べる事ができる、4. 体験を通して主体性、創造性、企画・運営力、コミュニケーション力を養うことの5つを掲げました。

学生は、3つのコミュニティ【学童保育での「山武市防犯かるた」普及活動】、【地域高齢者サロンでの介護予防活動】、【障がい者就労支援施設での就労支援活動】に分かれて活動しました。学生は授業の合間を縫って各コミュニティに時間をかけて溶け込み、地域の方々と信頼関係を築いて

いきました。地域課題の発見には地域の人々との交流が必須であり、交流が住民のニーズ(地域課題) 把握に繋がることを知り、その必要性を改めて実感しました。また、学生は地域の方々と共に活動する中で、各コミュニティのもつ力とは、「子どものもつ好奇心や行動力」、「高齢者のもつ寛容さ」、「障がい者のもつ相手のありのままを引き出す力」であると気づくことができました。このように、プロジェクトを企画・運営する力には、交流による信頼関係の構築を基盤として、コミュニティの力やニーズを把握し、課題解決に向けてポジティブに創造する力が求められることを学びました。

さらには、体験としてコミュニティの方々の存在が学生の主体的な姿勢を引き出し、相手の年代・個性に合わせた関わり方を掴むなど、コミュニケーション力も自然と育まれていました。今回の学びをさらなる自身の成長へと繋ぎ、地域の方と共に互いの未来を照らす、学生一人ひとりに育ってゆくことを期待しています。



城西国際大学 専門職連携教育

JIU-style IPE99 (Interprofessional Education 99)

専門職連携教育委員会 委員長 中村 洋

IPE99は、地域で必要とされる医療福祉人材を育成することを目的に、城西国際大学 専門職連携教育運営委員会が提供する医療福祉系三学部四学科による専門職連携教育プログラムです。

高齢化の進む中、「医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り、住み慣れた地域でその有する能力に応じ自立した生活を続けることができる」社会づくりには、専門職同士がお互いの顔を見て意見交換し、共通のゴールに向かって協働することが不可欠です。

IPE99では異なる学部学科の学生が同じ題材を学び討論することを通して、「対人支援専門職としての共通点」「対象者への向き合い方・視点・着眼点の違い」「他職種の特長性」に気付き、「自職種の特長性」を再認識し、「関係構築や意見調整」を経験し、連携・協働に必要な能力を身につけます。

IPE99プログラム 2022

STEP1：患者講演会、創作事例ワークショップ

STEP2：模擬事例検討ワークショップ、専門職講演

STEP3：実践IPE

2022年度は感染症対策を行い、全プログラムで学生同士が対面で意見交換をする機会を作ることが出来ました。入学以来オンライン中心の学生生活を過ごしていた2020年生にとって、異なる専門を学ぶ同世代から受けた刺激は大きいものだったと思われます。

IPE99の学びは地域の皆様のご支援・ご指導により成り立っています。この場をお借りして、皆様のご厚意に御礼申し上げます。

IPE99 Step1

患者講演会

テーマ『共有と尊重：対象を理解する』

【目的】

患者の気持ち、医療・福祉へのニーズを理解し、専門職を目指す自己にどのように役立てるかを考えることができる

【テーマ】

「日常生活の様子および専門職に対する期待」

【講師】

社会福祉法人パーソナル・アシスタンス とも
西田江里 氏

5月27日、医療薬学科、看護学科、福祉総合学科、理学療法学科の学生を対象に指談で、重度障がい者の当事者として小学校から現在に至るまでの生活現状および抱えている課題、また日常生活を支えている各専

門職の支援などが話されました。学生からは患者様を支えられるように正しい知識を身に付け、専門職を目指す学生であることを自覚して行動したいなどの感想が出されました。医療・福祉の専門職を目指す学生が患者様の気持ちを理解し、支援するための行動を自覚する貴重な機会となりました。



IPE99 Step1

創作事例ワークショップ

テーマ『共有と尊重：対象を理解する』

IPE99 Step2

模擬事例検討ワークショップ

テーマ『主張と調和：専門職を理解する』

【目的】

創作事例WS

事例を自由に創作し、『人の人生とは何か』、『個性とは何か』について考える

模擬事例検討WS

事例に対する支援の道筋を探るプロセスを疑似体験し、自職種の特徴について考える

【到達目標】

創作事例WS

- 未完成のケースをもとにその背景やストーリーを自由に創作することによって、『人の人生とは何か』について考え共有できる。
- 多数の個人が創作したそれぞれのストーリーの違いを知り『個性とは何か』について考察できる。

模擬事例検討WS

- 模擬事例の支援計画を作成し、本人の望む生活に向けた支援の道筋を探るプロセスを疑似体験できる。
- 各学科において考えられた支援計画を共有することで、他職種の特徴や視点の持ち方などの相違点を知り、自職種の特徴や強みを発見できる。

【受講生】

福祉総合学科 2・3 年生 (13 名)、理学療法学科 3 年生 (83 名)、看護学科 3 年生 (26 名)、医療薬学科 3 年生 (66 名)

【スケジュール】

創作事例WS

6月10日(金)～17日(金)：創作事例(個人課題)

模擬事例検討WS

6月17日(金)～29日(水)：

支援計画の作成(学科内のグループワーク)

7月1日(金)、8日(金)：

支援計画の共有、学科合同での支援計画の作成(学科混合のグループワーク)

7月15日(金)：

学科混合で話し合った支援計画の発表

【担当教員】

(福祉総合学科) 森山拓也、荻海燕、山本満智子
(理学療法学科) 金谷さとみ、安齋紗保理
(看護学科) 熊谷玲子、伊賀聡子、島村龍治
(医療薬学科) 中村洋、溝口優

【受講生の声】

- 同じ症例であっても、患者さんに対するケアやアプローチの仕方が異なり、視点の違いに驚いた。
- 今まで自分が見られていなかった視点で事例を見ることができた。
- 他学科の学生からの質問に答えることで、いろいろな気づきがあった。多職種の大切さを再認識した。



【プログラムを終えて】

複数の学科が合同で話し合いを行うことで、将来の臨床現場でも重要である多職種間の連携を擬似的に体験しました。目指す職種によって視点が異なることや支援の方法が異なることを多くの学生が感じたようです。各職種の考えを合わせて支援を考えるという多職種連携の重要さと難しさを知る良い機会となりました。

【目的】

専門職を理解する



【到達目標】

- チームケアにかかわる様々な専門職による講演を通して、各専門職の専門性や、他職種から何を求められているかを知る。
- 他職種と自分が目指す職種との違いを知り、どのようにチームとして機能できるかを考え理解する。

【受講生】

福祉総合学科(25名)、医療薬学科(72名)、看護学科(104名)

【スケジュール】

下の表のとおり各専門職による講演を拝聴した。学生は学びや感想について3学科混合のグループでディスカッションすると共にリアクションペーパーを作成し、専門性の異なる他職種との共通点と相違点を検討した。

【担当教員】

(看護学科) 熊谷玲子、伊賀聡子、島村龍治
 (福祉総合学科) 橋本理子、茆海燕
 (理学療法学科) 安齋紗保理
 (医療薬学科) 奥山恵美、中村洋、北村昭夫

【スケジュール】

日時	専門職	講師
6/17	薬剤師	笹原将生氏 (ササハラ薬局)
6/24	理学療法士	杉山楓氏 (こぱんはうすさくら新松戸教室) 鈴木雄大氏 (千葉西総合病院)
7/1	介護福祉士	片岡信明氏 (ゆりの木苑)
7/8	社会福祉士・精神保健福祉士	赤堀久里子氏 (NPOリンク)
7/15	看護師	小柴千鶴氏 (さんむ医療センター)
7/22	介護支援専門員	井上淳子氏 (九十九里町地域包括支援センター)

【受講生の学び】



- 多職種連携においては、各職種が高い専門性を身につけ、それぞれの専門の視点からみること、対象のニーズに合った最善の支援ができるのではないかと考えた。そのためには互いの専門性を理解し、信頼し合うことが大切であると学んだ。
- 各職種で共通することは、対象の望む生活に向けて、対象の尊厳を守り、意思を尊重できるように関わることだと思った。また、ご本人・ご家族が思いを表出できるようなコミュニケーションや多職種間で同じ目標に向かって支援できるように情報共有するためには、コミュニケーション能力を身につけることが重要であると実感した。

【プログラムを終えて】

今年度は、コロナ禍ではありましたが、感染拡大予防に留意して会場での講演会が実施できました。まだまだ、各現場でコロナ禍の対応に追われる中、ご協力をいただきました講師の先生方に心より御礼申し上げます。オンライン学習の期間が長かった学生達でしたが、対面で講師からの熱の入ったご講演を受け、積極的に講師に質問する様子も見られました。また、他学科の学生と対話することで他職種の専門性を理解し、自分の専門職の役割の理解や多職種連携など多くのことを学ぶ貴重な機会であったと考えます。

IPE99 Step3 | 実践IPE | テーマ『地域の医療福祉の場でチームケアを実践する』



【目的】

地域の医療福祉の場で利用者の立場からみた連携・協働した支援を学ぶ

【到達目標】

- 利用者のニーズに沿うケアサービスが提供できるようになるために、連携・協働の必要性を理解する。
- 連携・協働したチームケアを理解するために、自身の専門領域の知識・技術・態度を活用する。
- 連携・協働したチームケアを理解するために、自身の専門領域と他の専門領域との共通性を理解する。
- 利用者に沿った支援計画を立てるために、地域特性と利用者のニーズを理解する。

【受講生】

福祉総合学科3,4年(10名)、理学療法学科3年(7名)、看護学科4年(8名)、医療薬学科5,6年(8名)

【スケジュール】

- 事前学習 8月22日(月) :
チームビルディング、事前調査など
- 実地研修 8月23日(火)～25日(木) :
在宅訪問、施設訪問など
- 事後学習 8月26日(金) :
振り返り、実地研修での学びの発表・共有

【実地研修先】

花城医院(山武市)、大網歯科医院(大網白里市)、片貝デンタルクリニック(九十九里町)、おゆみ野総合歯科クリニック(千葉市緑区)、片貝薬局(九十九里町)、きだ在宅クリニック(大網白里市)、みんなのライフサポートクリニック大網(大網白里市)、ヤックスケアタウン千城台(千葉市若葉区)、ハーブランド薬局(柏市)

【担当教員】

(医療薬学科) 光本篤史、佐々木英久、中村洋、溝口優
(福祉総合学科) 伊藤将子、山本満智子
(理学療法学科) 金谷さとみ、窓場勝之
(看護学科) 井上映子、熊谷玲子、伊賀聡子、島村龍治

【受講生の声】

- 城西国際大学に入学して3年目で初めて他学部生と交流を行った。自分達とは違う環境で違う内容を学んでいる人々の意見を聴くことができ、純粋に楽しいと感じることができた。
- 多職種連携をするには、まず自分の専門領域をよく理解しなければならないことを再確認できた。
- 他学部と授業を受け、チームで活動することに新鮮さを覚えた。同時に、チームで何かを作り上げることに感動を覚えた。実践IPEで得た知識を活かし、活躍できる医療人になりたい。
- 今まで他の学部と関わることが減多に無かったため、今日の研修ではとても貴重な機会を設けてくださってありがとうございました。「そういう視点もあるのか」という場面が多く、広い範囲で物事を考えるスキルも身についたのではないかと思います。
- 口腔ケアの大切さを改めて知ることが出来た。他職種連携の在り方も学ぶことが出来たので、また機会があったら他職種連携を実践出来るような実習に参加したい。
- 院長先生のハーモニカ演奏は利用者さんみんなが活気づいていたのでとても良いと思った。
- 利用者さんと実際に関わり、1日の中でも変化が見られたことがよかった。地域連携は難しく考えずに、たくさん話してたくさん聞いて、人脈をつくるのが大事だとわかった。

【プログラムを終えて】

研修先のご協力のもと、充実したプログラムを行えたことを感謝いたします。今年度から理学療法学科が参加し実践IPEは新たなフェーズに入りました。今後もJIUでは広い視野をもち地域ケアを実践できる人材を育成していきます。



城西国際大学創立30周年記念講演

「千葉県一宮町へ根付かせるオリンピックレガシー (東京五輪サーフィン競技開催地として)」

千葉県一宮町 馬淵昌也 町長

本学創立30周年記念事業の一環として、2022年6月27日に千葉東金キャンパスにて千葉県一宮町の馬淵昌也町長による講演を実施しました。観光学部を中心に約100名の学生が参加し、地域振興に関する取り組みの実体験に耳を傾けました。

登壇した馬淵町長は、一宮町の魅力やオリンピックのサーフィン会場誘致について説明されました。コロナ禍により無観客での開催となったことに対し「思い描いていた盛り上がりは訪れず、町民の期待にも応えられない結果に終わってしまった」とのことでしたが、それでも一宮町の知名度が向上したことや今回の経験を活かしたいと前向きに捉えられていました。



ちば子ども大学連携講座

「目からうろこの保育学入門」

福祉総合学部 福祉総合学科 倉田新 教授

ちば子ども大学連携講座として、2022年8月26日に千葉東金キャンパスにて開催し、5組の親子が参加しました。子ども達に質問を投げかけながら、保育士の仕事が乳幼児の育ちにどう関わっているのか、乳幼児に原風景を刻むことの重要性、保育で大切なことなどを説明し、大学での学びを地域の子ども達に伝えました。

参加した子ども達からは、「保育士の仕事がとても大切なことだと感じました」「将来保育士になりたいので、とても勉強になりました」「保育士は子どもの人生を左右する責任重大なものだと分かりました」といった感想をいただきました。



本学研究シーズ集の紹介

城西国際大学は、研究成果や技術を企業、自治体、研究機関で活用いただくことを目的に「城西国際大学 研究シーズ集」を発刊しました。地域の皆様との連携をより一層推進し、産学官連携活動の活性化を図り、本学の研究成果を広く社会に還元して地域の課題解決に寄与したいと考えております。また、地域産業の活性化や社会活動を進める上で、本シーズ集に掲載されている研究課題が活用できれば、担当研究者としても至上の喜びを感じるものと思います。

それぞれの研究課題をご一読いただき、本学との共同研究や受託研究、地域の課題解決に向けた事業に関心をお持ちいただけましたら、ぜひご連絡を頂きたいと思っております。

城西国際大学研究シーズ集2022 URL <https://www.jiu.ac.jp/files/user/visitors/pdf/seeds2022.pdf>

2022年度 シニア・ウェルネス大学

本学創立15周年を記念して開設された一般市民向け教育プログラムです。大学が有する知的資源を提供することで、地域住民が自ら健康を培い、生きがいをもって社会参加することを目的としています。

2022年度は11名の受講生が入学、1年間で以下のカリキュラムを受講しました。2023年3月15日には卒業式を迎え、11名全員が卒業しました。



春 (4月～7月)		秋 (10月～1月)	
講義テーマ	担当学科	講義テーマ	担当学科
学長講話・オリエンテーション	—	平家物語に描かれた死①	国際文化学科
終の棲家—自由な可能性—	福祉総合学科	スポーツ体験(グラウンドゴルフ)	総合経営学科
校外学習:葛西臨海公園見学	観光学科	運動実践:実施方法と注意点	理学療法学科
中国の歳時飲食文化	国際交流学科	日々の生活に運動を取り入れるには	理学療法学科
食と薬～食べ物と薬の境界～	医療薬学科	校外学習:東国三社巡り	総合経営学科
パラスポーツ体験(ボッチャ)	総合経営学科	災害時の生活と食事	看護学科
留学生と地域の交流	福祉総合学科	平家物語に描かれた死②	国際文化学科
情報メディアとしての浮世絵	メディア情報学科	60代から始めるマネー&ライフプラン	総合経営学科
アロマセラピーを楽しむ	看護学科	グループワーク①	観光学科・福祉総合学科
20世紀音楽と映像表現	メディア情報学科	グループワーク②	
健康的な生活のための運動・栄養	医療薬学科	グループワーク③	
家族・夫婦関係を考える	福祉総合学科	グループワーク④	
春期間の振り返り	—	まとめ	—

2023年度 城西国際大学「市民未来大学」

シニア・ウェルネス大学はコミュニティカレッジと統合し、2023年度より城西国際大学「市民未来大学」に生まれ変わります。プログラム内容も一新し、ヘルスプランナーコース、健康・趣味・教養コース、語学コースの3コースを展開しており、いずれのコースも2年制です。

卒業後は「市民未来大学」で学んだ経験を活かし、仕事やボランティアなどを通して地域活動に積極的に参画していただき、地域を元気にする活動に関わっていただければと思います。



2022年度「地域活性を志向した子育て支援モデル」創造事業

地域連携推進センターは、少子高齢化に伴う人口減少が山武郡市地域の共通課題であることから、地域特性を活かした多様性に対応する「地域活性を志向した子育て支援モデル」を創造することを目的とし、2022年度は「未就児の親における“自治体発信の子育て情報”の有用性」をテーマに、山武郡市;東金市、山武市、大網白里市、九十九里町と東京都;千代田区、港区、江東区、江戸川区の子育て中の親を対象に、Web調査を実施しました。今後は山武郡市地域連携意見交換会において調査結果を共有し、子育て支援について検討をしていきます。

2022
年度

公開講座

実施一覧

今年度は東金市、香取市、茂原市、鴨川市、御宿町にて14講座を実施し、延べ336名が参加しました。各会場ではマスクの着用、検温や手指消毒、部屋の換気、受講人数の制限、座席の間隔を確保する等の感染症対策を十分に講じた上で対面にて行いました。講座アンケートではいずれの会場も概ね好評という結果をいただきました。

地区	講師	テーマ	講師	受講者数
東金市	10/15(土) 10:00～11:30	コロナ禍における県内観光と今後の展望	観光学部 岩本 英和	12名
	12/18(土) 10:30～12:00	園芸療法入門～身近な植物とのふれあいがもたらす健康増進	観光学部 多田 充	25名
	9/6(火)～9/9(金) 17:30～19:30	インターネットスタートコース (Aクラス)	経営情報学部 斎藤 紀男	44名
	10/5(火)～10/8(金) 17:30～19:30	インターネット活用コース (Bクラス)	経営情報学部 成瀬 健一郎	69名
香取市	9/28(水) 13:30～15:30	新型コロナウイルスとそのワクチンについて	薬学部 額賀 路嘉	10名
	10/27(木) 13:30～15:30	医薬品、医薬部外品、化粧品の違い	薬学部 押坂 勇志	11名
	11/29(水) 13:30～15:30	漢方薬の効果	薬学部 大原 厚祐	11名
茂原市	2023/2/6(月) 14:00～15:30	石井菊次郎 茂原(旧真名村)出身の敏腕外交官 －近代日本外交と歩んだその生涯を辿る－ 生い立ちから駐仏大使時代まで	国際文化学科 飯倉 章	30名
	2023/3/6(月) 14:00～15:30	石井菊次郎 茂原(旧真名村)出身の敏腕外交官 －近代日本外交と歩んだその生涯を辿る－ 外相、特派大使、国際連盟代表から晩年へ	国際文化学科 飯倉 章	30名
鴨川市	10/1(土) 13:30～15:00	新しい子育ての作法	福祉総合学科 倉田 新	27名
	11/26(土) 10:00～12:00	自然の恵みを考え活用しよう① 私たちの生活を支える「緑」の話	経営情報学部 国武 陽子	15名
	2023/2/18(土) 10:00～12:00	自然の恵みを考え活用しよう② 香りの世界を知る	経営情報学部 中村 智香	20名
御宿町	12/1(木) 13:30～15:00	生活習慣が乳がん罹患リスクに与える影響 乳がんになっても明るく生活するための アピアランスケア	看護学部 大森 直哉	12名
	2/15(水) 13:30～15:00	アロマセラピー －精油やタッチングを用いたトリートメントを 学ぼう－	看護学部 清水 清美	20名



2022
年度

コミュニティカレッジ講座

実施一覧

春は8講座実施、延べ406名が受講し、秋は10講座実施、延べ578名が受講し、合計18講座実施、延べ984名の受講となりました。いずれの講座も新型コロナウイルス感染症の感染対策として、対面講座ではマスクの着用、検温や手指消毒、教室の換気、座席の間隔を確保する等を徹底しました。

コミュニティカレッジは「市民未来大学」への統合のため今年度をもって廃止となりますが、「市民未来大学」の健康・趣味・教養コースで一部の講座を引き続き実施予定です。

本学創立当初より多くの方に支えられ、おかげさまで長きにわたりコミュニティカレッジを開講することができました。ご担当いただいた講師の皆さま、受講いただいた皆さま、この場を借りて心より御礼申し上げます。



【春学期】

講座名	講師	受講人数	講座回数
English Communication	市山 マリア しげみ	12名	全10回
すぐに話せる中国語	李 穎清	6名	全10回
日本文化論の名著を読む 新渡戸稲造『武士道』	長尾 宗典	17名	全3回
世界遺産の不思議と魅力	片岡 英夫	18名	全3回
暮らしに役立つクラフトバンド手芸	御園生 清子	5名	全4回
備えあれば憂いなし～知って得する福祉用具～	山本 満智子	3名	全2回
健康ウォーク&ランニング	岡原 友紀	8名	全5回
大人の食育講座	久保田 好子	11名	全5回

【秋学期】

講座名	講師	受講人数	講座回数
English Communication	市山 マリア しげみ	18名	全10回
すぐに話せる中国語	李 穎清	11名	全10回
日本文化論の名著を読む 岡倉天心『茶の本』	長尾 宗典	16名	全3回
世界遺産の不思議と魅力	片岡 英夫	17名	全3回
暮らしに役立つクラフトバンド手芸	御園生 清子	7名	全4回
毛筆でちょっとひと息 暮らしの中に毛筆を（通信）	渡邊 恵子	10名	全5回
香りでセルフケア	中村 智香	15名	全2回
運動によるロコモ・サルコペニア予防	柿木 亮	15名	全2回
楽しく学べる いきいき健康・美容講座	戸田 美樹	9名	全3回
やさしい日本語	佐藤 明子	3名	全8回

薬草 図鑑

本学薬学部では、地域で信頼され活躍する薬剤師を輩出する教育の一環として2017年度より「薬草図鑑」の作成を続け、2022年度には200号に到達しました。医薬品の中には、薬用植物から見出されてきた成分を基原とする「くすり」や、いくつかの生薬を組み合わせて成り立っている「漢方薬」などがあります。それらの元となる植物などを毎月紹介しているのが「薬草図鑑」です。

最新号は地域連携推進センターHPで発信しており、地域の商業施設「道の駅 みのりの郷東金」や東金市役所内ではリーフレットを配布していますので、ぜひ一度、お手に取っていただければと思います。

引き続き、地域の方々に興味を持っていただけるよう、健康管理につなげていただけるよう活動を継続して参ります。

薬草図鑑URL <https://www.jiu.ac.jp/clics/medicinalplant/>



観光学部の地域連携活動紹介

城西国際大学観光学部は、2022年4月より千葉県鴨川市にある安房キャンパスから東金市にある千葉東金キャンパスに移転しました。新天地となる千葉東金キャンパスにおいても、観光学部の一つの特色である地域連携活動に注力すべく、継続的な活動の実施並びに新規の活動開拓を模索してきましたので、その活動の一部を紹介します。

まず、最初に取り組んだことは、これから本学部の拠点となる東金市との「観光の振興に関する連携協力」に関する覚書を締結することでした。PR活動やイベント開催、人材育成などさまざまななかたちで、東金市の観光振興に向けた協力体制を整備していくというものです。

例えば、昨年度より全学共通基盤科目として観光学部が提供している「道の駅と大学」という域学共創プロジェクトを介して、道の駅・みのりの郷東金を拠点とした地域資源のPR活動や、本年度よりサイクルツーリズムによる新たな観光需要の喚起などについて検討しプロジェクトとして実施してきました。他にも、「観光用フリーペーパー」の作成(観光メディア)や「観光PR動画」の作成(観光メディア制

作b)などを実施しています。

また、東金商工会議所と連携し、観光庁の委託事業にも応募し事業採択され学生の考えた映像祭の案が『7200秒の東金フィルム-光と映像で時を超えて-』として開催されました(観光メディア制作a)。地域で活躍されている方々に、「まちなか先生」という指導者を演じてもらうなど、地域と大学が手を結ぶ新しい試みも模索しています。

もちろん、こうした活動は、東金市に限りません。例えば、JR東日本と継続的に実施している駅からハイキング。本年度は、九十九里町や大多喜ガスと連携し、海の駅・九十九里で「千葉ピザ」を開発(山本ゼミ)しました。成田空港に隣接した芝山町と連携し「インバウンド向けの魅力発見」などの検討(フィールド基礎演習b)も実施しました。

上記の活動以外にも多くの地域連携を観光学部では推進しております。つきましては、近隣地域の皆様とは連携を深めていきたいと考えておりますので、学生の活動をご支援していただけますようお願いいたします。



大多喜ガスのキッチンを借りて、「千葉ピザ」を開発する様子。



「インバウンド向けの魅力発見」のための視察とプレゼンテーションの様子。

「観光メディア制作a ー東金商工会議所との連携事業にて映像祭を実施ー」

2023年1月21日・22日、東金商工会議所主催のナイトタイムイベント推進活動において、城西国際大学観光学部の学生の企画による映像祭『7200秒の東金フィルム ー光と映像で時を超えてー』を開催しました。

東金市ゆかりの映像を介して、観光客だけでなく、地域の人や学生など若者にも地域の魅力を知ってもらい、「地域内外を超えた多世代交流のための場づくり」を目標に、

- (1) 地域資源を利用する機会を作る
- (2) 地域人との交流する場を作る
- (3) 地域の歴史と今を学ぶ仕掛けを作る

ことを目的とした活動を実施しました。

こうした目的は、地域で活躍されている人材(通称：「まちなか先生」)と一緒に、学生が半年かけて検討してきたことです。

その成果が、上記の映像祭となります。

具体的には、八鶴館や文化財カフェ・サントスといった東金市にある文化財を活用し、地域の歴史を紹介する映

像を探し出してきて上映したり、今、地域で活躍している飲食店のメンバーなどのインタビューによる記録映像を上映しました。

その際には、サプライズイベントとして、東金の祭囃子を代々継承している団体・い若会のご協力のもと、会場内で東金ばやしの実演も実施しました。

さらには、東金商工会議所青年部や近隣の保育園の協力を得て、会場周辺の夜景を彩るキャンドルを制作したり、道の駅みのりの郷東金にお願いをして集めた食材を利用し地域に点在する飲食店やキッチンカーの方々の協力のもとフードロス対策フードの制作も行いイベントを盛り上げました。

ご協力くださった地域の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。また、こうした経験を通して、イベントに関わった学生たちは「今後も地域の人と東金市を盛り上げていきたい」とのコメントを寄せていました。つきましては、今後とも本学部学生との連携のほどをよろしくお願ひします。

(担当教員：金子祐介)



今回のプロジェクトは、学生自らが、一から企画したイベント概要を地域の方々に提案をすることからスタートしました。

私は、「企画」のチームリーダーを務め、とくに、イベント会場として設定した東金市の文化財で上映する映像収集に力を入れました。

まず、映像祭の「東金らしさをもっと知ってほしい」というテーマを実現させるため、観光メディア制作bという他の授業を履修している学生が制作した東金市内にある飲食店の方々へのインタビュー動画の放映や若い人にも東金市の伝統芸能を知ってもらうための活動として東金ばやしの生演奏を提案しました。また、映像祭を盛り上げるため、まちの駅ネットワークが主催する『ふるさとmini動画大賞』とコラボすることも検討し連携を図りました。

とくに、私が注力したのは、東金ばやしの演奏活動をしている団体・い若会との連携作業でした。出演依頼をするにあたり、12月18日に東金文化会館で実施された『ま

い・舞・はやしフェスタ22』に足を運び、実際に演奏を聴くこととしました。「私たち自身が、東金市の伝統芸能を知り、その魅力に気づくことから始めないといけない」と思ったからです。そうした活動や自分達の想いを伝え、出演依頼をし、い若会の方々から出演の承諾を頂いた際は、とても嬉しく思いました。

その後も、先方との打ち合わせや演奏会場の選定、当日の段取りも学生が行い、私たちの企画が少しずつかたちになっていきました。そして、演奏当日を迎え、お囃子の演奏を目の前にし、観客が演奏にくぎ付けになっている様子を見て、これまでになかった達成感を感じました。

こうした達成感を味わうことで、本当の意味での「観光」を活用した地域創生とは何か?ということについて深く考えさせられたように思います。また、地域の方々に関わりプロジェクトを達成する意味もわかりました。

今回の企画にご協力くださった皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。

(観光学部3年 石田 茜音)

2022年度 主な地域連携活動

活動名称	実施期間
「絵本ワールドin京葉」	2022年7月、10月、11月
東金特別支援学校とのボッチャ競技の交流会	2023年1月
令和4年度 産後ケア事業における研修会 講師	2023年2月～3月
第78回 日本助産師学会ワークショップ 講師	2022年5月22日
認知症サポーター養成講座の企画	2022年6月14日
市民公開講座「どうしよう!股・膝の手術」	2022年6月25日
九十九里高等学校「総合的探究の時間」授業指導	2022年6月30日、2023年2月16日
佐倉市中央公民館市民カレッジ	2022年7月1日
東金市家族介護教室	2022年7月25日、8月2日、8月9日
市民公開講座スポーツ「アスリートを支援するスポーツリハビリテーションの実際～ファンクショナルテープの実際～」	2022年7月31日
プレパパママクラス 講師	2022年8月21日
知っていますか?歯周病と早産リスクー妊娠中の歯科診療と禁煙支援のポイントー	2022年9月18日
最新! 子宮頸がん予防ワクチン接種を考えている母娘に向けて助産師ができることー	2022年9月18日
青少年育成事業「さんぶ子どもフリーマーケット」開催	2022年10月10日
東金オリーブ産地化応援プロジェクト - 収穫体験イベント	2022年10月24日
社会福祉法人ユーカリ福祉会講演「環境から学ぶ保育を考える」	2022年11月12日
東金市立小学校での「薬物乱用防止教室」	2022年12月5日～7日
千葉県立京葉高等学校 模擬授業講師	2022年12月8日
正気小学校1000か所ミニ集会	2022年12月9日
東金市クリスマスリースづくり教室 (道の駅みのりの郷東金カフェ・レストランテ とっちゃんにて)	2022年12月18日
青少年に対するエイズ等性感染症対策講習会	2022年12月21日
令和4年度 厚木保健福祉事務所「妊娠期からの児童虐待予防支援事業」に係る講師	2023年1月17日
家族と赤ちゃんの響きあうこころを支える	2023年1月29日
子育て支援ルーム「くじらキッズ」	通年

詳細はHPをご覧ください。



2022年度 連携協定一覧

協定先	締結時期	連携内容
東金市	2022年5月17日	東金市の観光振興について連携協力を行う
海の駅九十九里	2022年6月2日	海の駅九十九里における本学学生の観光コンテンツ開発プロジェクトについて三者で連携する
大多喜ガス株式会社		
北海道上士幌町	2022年7月13日	上士幌町における課題解決の検証のため、実証実験を協力して行う
東金市商工会議所	2022年9月1日	観光庁「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」：「蔵」を活用した映像祭の企画・立案、運営を実施
東金市	2022年9月22日	「東金市ロコモ体操」をきっかけとした通いの場の効果を明らかにするため、調査・分析を連携して行う
医療法人社団一歯会 ひまわり保育園	2022年9月30日	地域の子育て環境の充実、人材育成及び活性化を目指し協力する
株式会社北信越地域資源研究所	2022年9月30日	観光庁「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」：「上越リアル鉄道博物館プロジェクト」コンテンツ掘り起こし事業の実施
山武市	2023年1月18日	山武市の外国人児童生徒の教育の充実、及び、日本語教育に係る人材育成等を目的として連携する
山武市教育委員会		
芝山町	2023年3月22日	広範な分野で地域社会の形成・発展および観光振興に係る連携協力を行う